

## 肉腫への理解求め自転車ツアー 29日平和公園 宮島口 '03/6/27



悪性（腫瘍（しゅよう））の一つ、肉腫への理解を広げるため、世界10カ国で取り組まれる自転車ツアーが29日、国内では中区の平和記念公園と大野町の宮島口を結ぶ約20キロで繰り広げられる。一緒に走る仲間を募っている。

臓器にできるがんに対し、肉腫は骨や筋肉などにできる。国内でもがんの死者数の1%にも満たない。患者が少ないため研究は進みにくく、決定的な治療法も見つかっていない。

ツアーは、社会の関心を高めて、行政の支援や研究を進めるのが目的。米国・ニューヨークで闘病中のリディー・シュライバーさん（35）と家族、友人が発案した。

今年三月、リディーさん自らルイジアナ州で初挑戦して、全米で話題になった。三十日 七月六日は、かつての留学先のデンマークを訪れて、賛同者と走る。

リディーさんの父親と二十年来の知人である中区の元大学教授市川忠男さん（67）に、「日本でも走って」と協力を求める電子メールが届いた。市川さんは、教え子で平和運動などに取り組む中区のインド人会社員ラオ・サシパリさん（40）に相談。同僚や学生約二十人を誘った。同時期にポルトガルなど計九カ国で、同様のツアーがある。

二十九日午前九時半、平和記念公園に集合。肉腫の英名「SARCOMA」と書いたTシャツ姿で、宮島街道経由でJR宮島口駅を目指す。

サシパリさんは「広島を象徴する世界遺産の間を走り、国内患者のためにも、協力を呼び掛けたい」と話している。七月五日にも同じ出発時間・ルートでツアーを企画している。市川さんTEL082(246)0887。

【写真説明】「肉腫」に理解を求めるため、自転車ツアーへの参加を呼びかけるリディーさん（中）と両親